

白馬村地域公共交通計画 概要版

地域公共交通

計画とは・・・



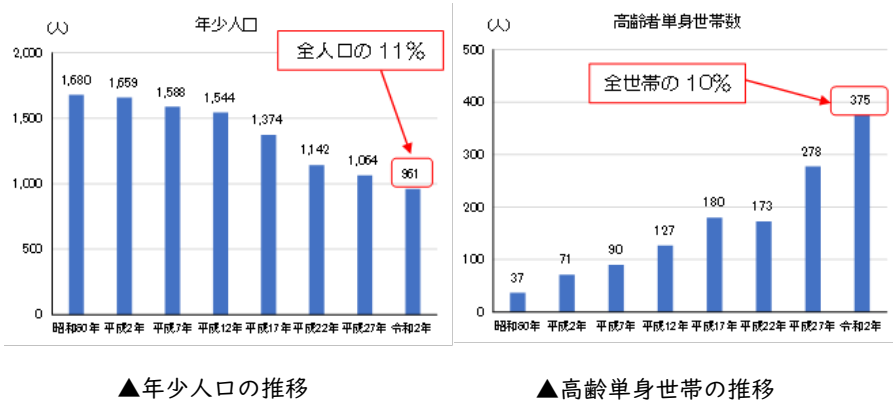
白馬村キャラクター
ヴィクトワール・シュヴァール・村男Ⅲ世

地域公共交通計画は、「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする公共交通の「マスタープラン」です。

計画内では、**持続可能な地域旅客運送サービスの提供**の確保に向け、バスやタクシーといった既存の公共交通サービス、必要に応じて自家用有償旅客運送やスクールバスなどの既存の民間事業者による送迎サービス等についても最大限活用する取組を盛り込み、実現化を図っていきます。

地域公共交通の課題

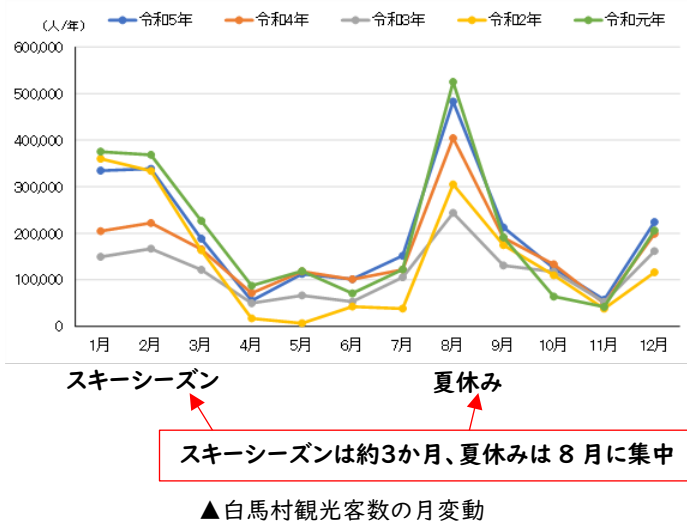
■地域特性からの課題



【課題】

- ・村内地区それぞれの地区特性を考慮した移動手段の検討
- ・今後自動車を運転できなくなった時の状況に合わせた移動手段の確保
- ・通学、通院、買物など、移動目的や施設の立地を考慮した移動手段の検討
- ・広範囲な施設立地をカバーする持続可能な移動手段の確保

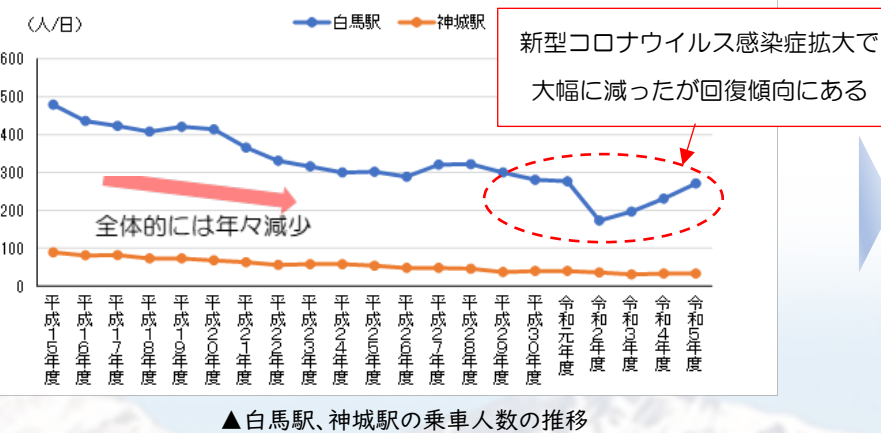
■観光特性からの課題



【課題】

- ・回復したインバウンド需要も含め、観光客に便利でわかりやすい公共交通の整備
- ・公共交通利用と旅行者に対する飲食店予約やお買い物情報等も含めた情報の利便性向上
- ・年間を通じた需要の平準化、それら需要の変化に対応した公共交通の確保
- ・公共交通の運行車両台数やドライバー人材の不足への対応

■現公共交通の課題



【課題】

- ・村の玄関口（白馬駅や白馬八方バスターミナル）としての機能強化
- ・AI デマンド交通の利用者からの要望への対応、利用者の共助を促す施策の推進
- ・わかりやすい情報提供手段（冬期民間シャトルバス等）の検討
- ・交通弱者の移動しやすさの向上

地域公共交通計画の基本方針及び目標の設定

■基本方針

地域公共交通網形成計画において掲げた 4 つの基本方針を踏襲し、第5次白馬村総合計画や白馬村都市計画マスタープランのまちづくりの姿も踏まえながら、生活交通・観光・持続可能性の3つ観点で整理し、次のように設定します。

【基本理念】

多様な人々が安心して暮らし、快適に訪れることができる
持続可能で利便性の高い交通サービスの実現

基本方針 1 安心して暮らせるための生活交通の確保と拡充（住民交通）

- ・高齢者や子供など交通弱者の村内移動を支援する公共交通を年間通じて確保、新たな技術を活用した福祉輸送により、住民が使いやすい生活交通機能の実現
- ・ふれ AI 号・スクールバス・福祉有償運送を基にした生活交通の形成
- ・運行事業者の AI 等スマート技術活用による効率化

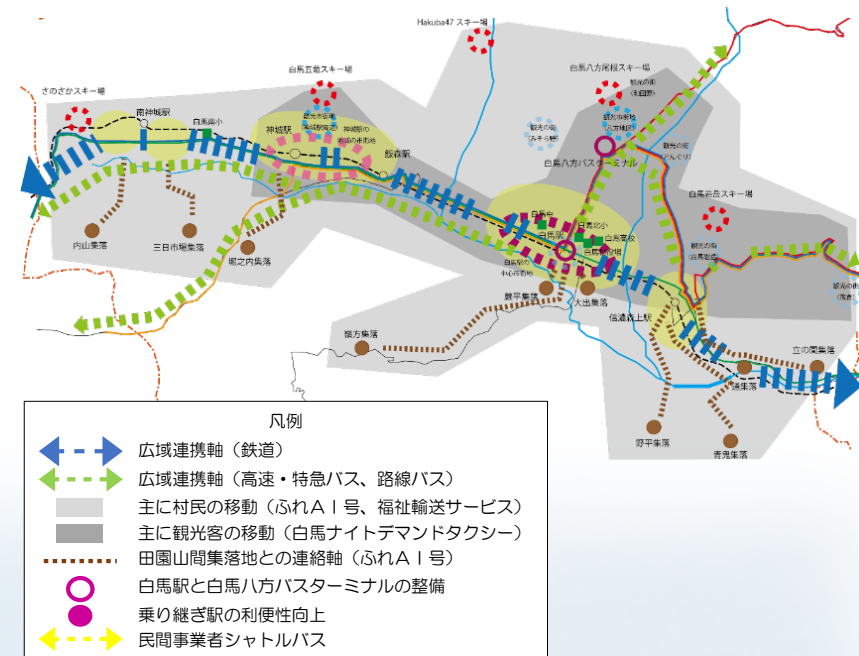
基本方針 2 外国人を含めた観光客が快適に移動できる、まちづくりと公共交通網の構築（観光交通）

- ・来訪者の移動における利便性を確保するため、将来の交通体系の変化を見据えた、運行情報の一元化や多言語対応、乗り継ぎ拠点の整備
- ・白馬ナイトデマンドタクシー、タクシーの共同配車、HV シャトル等の DX の推進による利便性の向上
- ・駅・バスターミナル等、利便性向上のために乗り継ぎ拠点の整備
- ・日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）に沿った交通体制の構築

基本方針 3 村の豊かな環境維持や担い手不足解消など未来を見据えた持続可能な環境に配慮した交通サービスの発展（持続可能な交通）

- ・白馬村の豊かな自然環境を維持するため、脱炭素を踏まえた、新たな技術（DX・GX）や多様なモビリティサービスを活用した公共交通システムの向上
- ・自動運転技術、グリーンスローモビリティ、コンパクトカー、カーシェアリング、次世代空モビリティ等の新技術の活用
- ・ゼロカーボンロードマップに準じた交通網の構築

■公共交通ネットワークのイメージ



■地域生活を支える AI オンデマンド乗合交通

・ふれAI号



・白馬ナイトデマンドタクシー



地域公共交通計画に関する施策・事業

基本目標1

安心して暮らせるための生活交通の確保と拡充（住民交通）

計画目標1) ふれ AI 号の利用促進

施策① ふれ AI 号の利用促進

事業内容: ①利用者の利便性向上、運行の効率化
②周辺自治体との広域運行の検討

計画目標2) 福祉輸送サービスの拡充

施策② 福祉有償運送の見直し・ライドシェアの拡充

事業内容: 利用要件等を見直し、公共ライドシェアの中の「福祉有償運送」の拡充を検討

計画目標3) スクールバスの運行見直し、拡充

施策③ 最適なスクールバスの運行方法検討

事業内容: 現在運行しているスクールバスの見直しや効率的な運行の検討

施策④ 運行事業者の DX による効率化

事業内容: リアルタイムデータと高度な分析を用いて、交通の流れをスムーズにして運行の効率の最大化の検討

基本目標2

外国人を含めた観光客が快適に移動できる、まちづくりと公共交通網の構築（観光交通）

計画目標4) 観光公共交通の体制の構築

施策⑤ 冬期の移動手段の確保

事業内容: ①白馬ナイトデマンドタクシーの利便性向上
②タクシー配車アプリによる交通 DX
③HV シャトルの利用向上

計画目標5) まちづくりを兼ねた乗継ぎ拠点の拡充・交通整理

施策⑥ 白馬駅・八方バスターミナルの整備

事業内容: 【鉄道駅】駅前広場の円滑な交通動線を考慮した施設配置の見直しや周辺への適切な規模の駐車場確保
【白馬八方バスターミナル】快適な待合スペースの確保や情報提供、バリアフリー化

施策⑦ 大系線の利用促進と活性化

事業内容: 大系線プロモーション事業（謎解きラリー）などを実施しながら、大系線の利用促進と活性化を図る

施策⑧ 乗り継ぎ駅の利便性向上

事業内容: 二次交通の乗車位置、利用方法、周辺の宿や観光地の案内情報等の提供

計画目標6) わかりやすい情報案内

施策⑨ わかりやすい公共交通案内・情報の一元化

事業内容: 高齢者や障がい者をはじめ、外国人観光客にも認識しやすく、わかりやすい情報提供

施策⑩ JSTS-D ガイドラインに沿った交通体制の構築

事業内容: ①多様な受入環境の整備
②地域住民のアクセス権の確保
③観光負荷の小さい交通の利用促進
④低炭素の多様なモビリティサービスの活用、普及

基本目標3

村の豊かな環境維持や担い手不足解消など未来を見据えた持続可能な環境に配慮した交通サービスの発展（持続可能な交通）

計画目標7) 村民との協働会議・意見交換の場の確保

施策⑪ 地域公共交通会議・検討委員会・各地区の意見交換会

事業内容: 村民・事業者との協働会議、意見交換の場を確保

計画目標8) 運転車両や運転手不足への対応

施策⑫ 公共交通の担い手確保策の検討

事業内容: 日本版ライドシェアについて今後の動向を注視・検討

計画目標9) 脱炭素を踏まえた新たな技術（DX・GX）の多様なモビリティサービスの活用

施策⑬ 自動運転・グリスロ・コンパクトカー・カーシェア・EV 自動車・空モビリティの活用

事業内容: レンタサイクルについて、周辺部への拡大や乗り捨ての実施、シェアサイクルの導入、サイクルトレインの運行などを検討

計画目標10) 自然環境維持のための交通

施策⑭ ゼロカーボンロードマップに準じた交通網の構築

事業内容: 自家用車・商用車の電動化推進、充電インフラの整備、次世代交通サービスの検討、持続可能な暮らしの情報発信

事業スケジュール

←: 検討 →: 実施

施策内容	短期						中長期
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
①ふれ AI 号の利用促進	←	→	←	→	←	→	
②福祉有償運送の見直し・ライドシェアの拡充	←	→	←	→	←	→	
③最適なスクールバスの運行方法検討	←	→	←	→	←	→	
④運行事業者の DX による効率化	←	→	←	→	←	→	
⑤冬期の移動手段の確保	←	→	←	→	←	→	
⑥白馬駅・八方バスターミナルの整備	←	→	←	→	←	→	
⑦大系線の利用促進と活性化	←	→	←	→	←	→	
⑧乗り継ぎ駅の利便性向上	←	→	←	→	←	→	
⑨わかりやすい公共交通案内・情報の一元化	←	→	←	→	←	→	
⑩JSTS-D ガイドラインに沿った交通体制の構築	←	→	←	→	←	→	
⑪地域公共交通会議・検討委員会・各地区の意見交換会	←	→	←	→	←	→	
⑫公共交通の担い手確保策の検討	←	→	←	→	←	→	
⑬自動運転・グリスロ・コンパクトカー・カーシェア・EV 自動車・空モビリティの活用	←	→	←	→	←	→	
⑭ゼロカーボンロードマップに準じた交通網の構築	←	→	←	→	←	→	

目標設定と数値目標

指標	算定方法	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
指標1 ふれAI号利用者数	白馬村の運行データから1年ごとに算出	15,571人 (R7年2月末時点)	1.9万人
指標2 福祉輸送サービス利用者数	白馬村の運行データから1年ごとに算出	延べ50人	延べ500人
指標3 スクールバス乗車率	スクールバスの運行データから1年ごとに乗車率を算出	50%	70%
指標4 白馬ナイトデマンドタクシー利用者数	白馬村の運行データから1年ごとに算出	8,963人 (R7年2月末時点)	1.2万人
指標5 白馬駅乗車人数	白馬駅の年間1日平均乗車人数(JR東日本資料)から算出	271人 (令和5年度)	500人
指標6 公共交通の満足度	総合計画におけるアンケート結果から満足の割合を算出	11.7%	20%
指標7 新規事業の件数	新規事業の実施件数より算出	3件	6件
指標8 意見交換会等の開催回数	意見交換会等の開催回数	0回	12回以上